

力キにおけるわい性台木の利用効果

背景と目的

力キは高木性の果樹であり、摘蕾や収穫などの栽培管理作業には脚立の使用が必要です。本研究では、力キ栽培の省力化の観点から、近年開発された「わい性台木」の利用が力キ樹の生育や収量、作業性に及ぼす影響を調査しました。

※本研究は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）果樹茶業研究部門の「力キわい性台木連絡試験」により実施しました。



結果

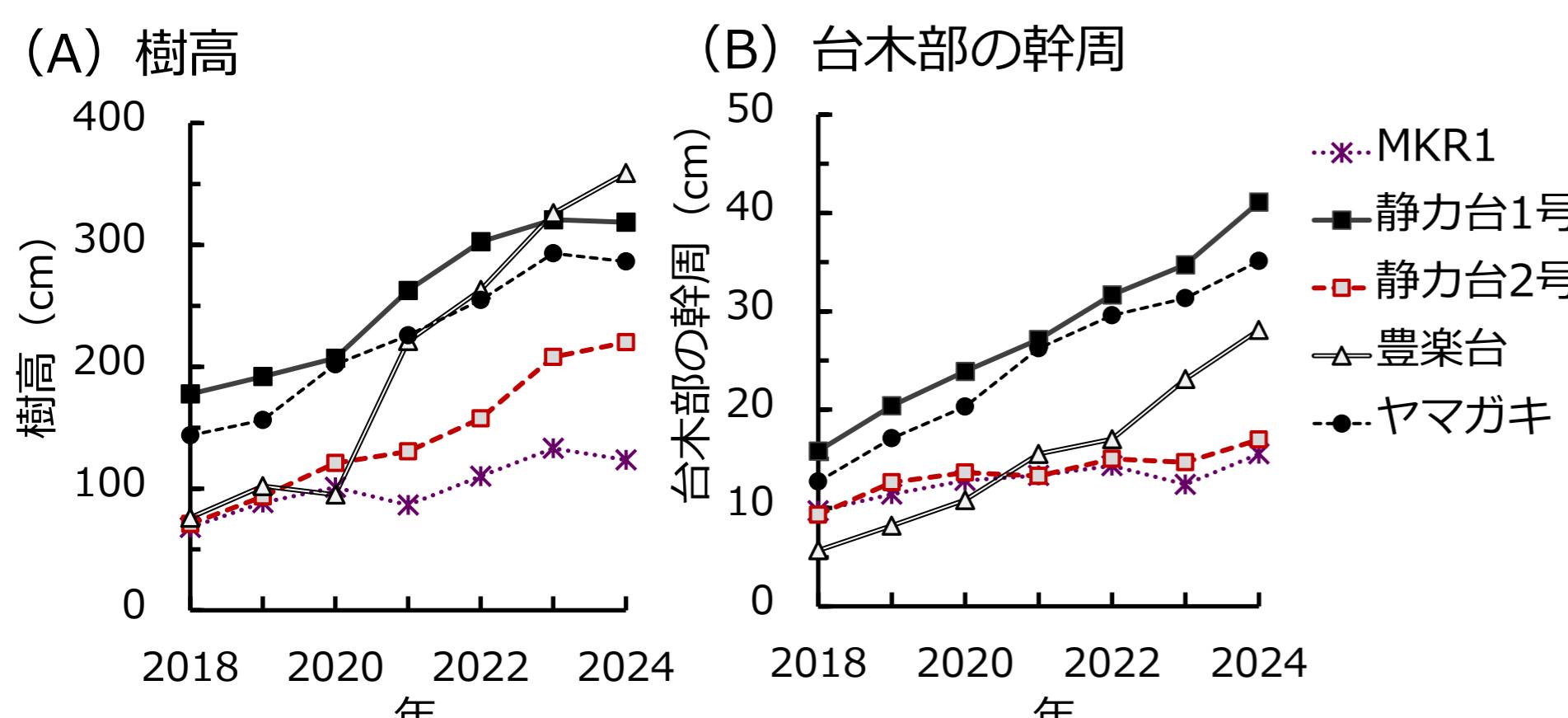
- 今回検討したわい性台木4種類（第1表）および対照台木（ヤマガキ）に対して、穂木として‘刀根早生’の早生系統（通称「上平早生」）を用いて2015年春に接ぎ木を行い、2016年に果樹・薬草研究センター（五條市）内の圃場に定植しました。
- 4種類の台木のうち、「MKR1」と‘静力台2号’については、対照台木（ヤマガキ）に比べて生育が抑えられる傾向がみられました（第1図、第2図）。
- 7～8年生樹の1樹あたりの収量は、「MKR1」が対照台木の7%、「静力台2号」が15%と少なくなりました（第2表）。
- 同時期の1樹あたりの作業時間は、「MKR1」が対照台木の9%、「静力台2号」が17%と少なくなりました。「MKR1」と‘静力台2号’については、すべての作業において脚立が不要でした。
 - 例えは‘静力台2号’の植栽本数を300本/10a、対照台木を50本/10aとした場合、「静力台2号」の10aあたりの収量は対照台木の89%、作業時間は102%となります。

第1表 検討したわい性台木および樹数

台木品種名	育成者	供試樹数
MKR1	国立大学法人宮崎大学	2
静力台1号	静岡県	3
静力台2号	静岡県	2
豊楽台	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、島根県	1
ヤマガキ	(対照の慣行台木)	3



第1図 各台木の樹姿（2025年1月30日撮影）
各写真内の白棒は約2m



第2図 各台木樹の樹高および台木部の幹周の推移
(2018～2024年)

台木部の幹周は、接ぎ木部の下5～10cmの部分を計測

第2表 各台木樹の収量および作業時間（2022～2023年の平均）

台木	収量 (kg/樹)	作業時間 (秒/樹)					脚立使用 時間 (秒/樹) ^z
		摘蕾	摘果	収穫	剪定	合計	
MKR1	1.2 (7) ^y	66	32	67	31	196 (9) ^y	0
静力台1号	18.8 (112)	976	361	710	293	2,340 (111)	549
静力台2号	2.5 (15)	150	51	106	53	359 (17)	0
豊楽台	9.8 (58)	436	186	388	182	1,191 (57)	247
ヤマガキ	16.8 (100)	945	346	603	209	2,103 (100)	269

^z全ての作業における脚立使用時間の合計値

^y括弧内はヤマガキを100とした場合の割合を示す

まとめと今後の取り組み

「上平早生」のわい化栽培には、「MKR1」と‘静力台2号’の利用が有効である可能性が示唆されました。今後は力キの低樹高栽培に関心のある農業者等に対して情報提供を行います。

(2025年12月作成)